

イシガケチョウの幼虫発見

上田 倫 範

『てんとうむし・No.8』「県下における迷蝶の記録」
 広畑政己氏の報告を読んで以来、イシガケチョウを捜
 していた。1983年9月30日に1～3令幼虫10頭と卵数
 個を発見した。飼育の結果下記の通り羽化している。
 表紙写真

2♂	13-X-1983	羽化
2♂	15-X-1983	"
1♂ 1♀	17-X-1983	"
1♂	21-X-1983	"

発見場所と環境

発見場所は、姫路市井ノ口54番地、姫路市立荒川小
 学校の校庭にある公園内のイヌビワの木である。

イヌビワは、公園内の奥にあるので子どもが近づき
 にくく、しかも、山の斜面が真近にせまっているので、
 日だまりになって暖かい。その時も10月だというのに
 イヌビワは新芽が出ていた。だから、幼虫の格好の食
 樹になっていたと思われる。

孵化について

3卵を室内に、他の卵は、自然のままに孵化させて
 みた。気温が低かったのか室内の1頭のみが孵化した
 だけだった。

幼虫について

幼虫10頭の大きさは、7mm～26mmまでまちまちだっ
 た。5頭を室内で、残りの5頭は自然の状態に飼育す
 ることにした。飼育は、以前にキリシマミドリシジミ
 の飼育を黒田氏に指導していただいていたので、楽に
 できた。イヌビワの木は、水をあげにくく、すぐしお
 れてしまう。そこで、空ピンを利用しふたをしておく
 と、3～4日しおれないですむ。幼虫の期間について
 は、不明であるが、蛹期は、11日間前後であった。体長
 は、25mm程度で、後述の本による大きさ(30mm程度)
 よりやや小さい。

土着の可能性について

今回の調査から、次のようなことがわかった。
 発見した時は、卵から3令幼虫までであったが、その
 間は、20日程の産卵の差があった。羽化した成虫は、
 夏型である。また、保育社の『原色日本蝶類幼虫大図
 鑑』(1982)によると、「越冬母蝶の卵は食樹の芽に、
 他の時期の卵は葉表または葉裏に1個ずつ産卵する」
 とある。発見した卵は後者であった。以上から考える
 と、迷蝶による一時的な発生であると考えられる。
 しかし、岡山県では、6月～10月にかけてかなりの
 個体数が確認されている。今回の飼育では、母蝶によ
 る越冬は失敗した。けれども、姫路市南部には、食樹
 のイヌビワの木がたくさんある。また、今回の発見
 所や、それより1.5km離れた場所でも成虫が目撃されて
 いる。このように考えると、少ないながらも越冬の可
 能性も残されており、今年の春からの調査が楽しみて
 ある。

今回の報告に当たり、イシガケチョウに関する文
 章をいただいた広畑氏に感謝している。

＜参考文献＞

- 難波通孝(1978)岡山県のイシガケチョウについ
 て すずむし No.115
 広畑政己(1982)兵庫県産蝶類分布資料(2)
 てんとうむし No.8
 白水隆、原 章共著 『原色日本蝶類幼虫大図鑑』
 (1982) 保育社
 (S.71: Michinori 姫路市)

ジャノメチョウの幼虫を カサスゲで採集

広畑 政 己

1982年5月16日に千種町鷹巣にて本種の幼虫1頭を
 カサスゲより採集している。本種の食草としては、イ
 ネ科のススキやカヤツリグサ科のヒカゲスゲが報告さ
 れているが、カサスゲの記録はないようなので報告し
 ておく。

カサスゲからは、オオヒカゲやヒメジャノメの幼虫
 が多く見つかったが、本種の幼虫はこの1頭だけであ
 った。幼虫は持ち帰り、カサスゲで飼育をすると、順
 調に育ち、普通の大きさの個体が羽化している。食草
 の同定は、清水孝治氏にお願いした。厚く御礼申し上げる
 (S.28: Masami Hirohata 〒671-22 姫路市)